

第2回原子力委員会 ITER 計画懇談会の結果について

平成9年4月18日

核融合開発室

日時：平成9年4月9日（水） 13:00～15:00

場所：科学技術庁第1、2会議室

出席者：委員 飯田委員、飯吉委員、猪口委員、井上委員、大河原委員、
木田委員、クラーク委員、伊達委員、苔米地委員、
中里委員、那須委員、増本委員、宮委員、宮島委員、
森委員、吉川(弘)委員、吉川(光)委員 (17名)
一般傍聴者 20名（希望者32名より、抽選により20名を選出）
報道関係者 20名（カメラマンを含む）

概要：

1. 今後の検討の論点について

（事務局作成の「ITERの主な論点（案）」に対し、各委員から述べられた意見の概要）

- ・各国の科学技術予算は大凡GDP比1%というところ。我が国は未だこの水準に到達していないが、1%の場合であっても、ITERを我が国に誘致するとすると、その内の2から3%を長期に亘り投入することになることについて十分な議論と認識が必要。
- ・核融合開発やITER計画を進めることが前提の議論をいくら行っても本懇談会としての意味はなく、なぜ核融合開発、ITER計画であるのかについて誠実な議論が必要。
- ・ITER計画が開始されてからの経緯をみると、本懇談会は中間評価の段階。今後の計画に関する適切な助言を与えるという観点からの検討が重要。
- ・長期の腰を据えた施策の展開が必要。人材の養成に如何に取り組んでいくのか。
- ・国際情勢の中での対日感情をも考慮した検討が必要。
- ・核融合は、学術・文化的にも重要な分野。新しい学問を構築していく上で核融合開発は重要。将来のエネルギー源が核融合しかないという結論でなければITER計画を進められないということではなく、科学としての重要性も認識することが必要。

- ・核融合についてはこれまでとは本質的に異なった組織論が、研究体制・業務の実施体制に必要。その際、情報の取り扱いを含め民主的な考え方の構築が必要。
- ・新しい技術を導入する際の安全の問題に関し十分な議論が不可欠。
- ・大型プロジェクトについては財政的に厳しい状況であるようだが、一律削減は財政構造改革にはならないのではないか

2. 核融合の魅力とITERの技術的見通し

- ・日本原子力研究所より、ITERの技術的課題と現状に関する説明が行われ、我が国の技術開発能力等に関し検討を行った。

○次回は、5月9日に開催の予定。

(参考)

ITER計画に関する主な論点について(案)

I 核融合開発の意義

- －核融合開発は人類にとってどのような意義を有するのか
- －現時点で核融合開発を更に進める理由は何か

II ITERの実現可能性

- －ITERは技術的に実現できるのか
- －ITER計画の科学技術上の意義は何か
- －ITER計画は核融合開発上適切な選択肢であるのか
- －ITER計画が国際共同プロジェクトであることに起因する困難さはあるのか

III 我が国の対応方針を検討するための基本的視点

- －ITERを立地する場合のプラス面・マイナス面は何か
- －我が国がITERの誘致を進めることは妥当な選択肢か

IV 検討に当たっての配慮事項

- －現在進展中の国際的話し合いの進捗状況等にどう対応するか
- －計画の実施段階は次世代の人々が担うことについてどう考えるか
- －国民の理解を求める努力が必要ではないか